



駒澤会だより

第14号

2010年7月5日
駒澤大学駒澤会発行

会長就任のご挨拶

会長 井上 俊 夫



平成22年5月22日に開催されました駒澤大学駒澤会委員総会におきまして、会長に就任致しました。

本会は、会員相互の親睦を図り、大学の発展と教育研究の向上に寄与することを目的に39年前に創立されました。先人の方々のご努力で活発な活動が保たれて参りました。こうした伝統ある駒澤会の会長という大役を仰せつかり、光栄に存じますと共に責任の重さを痛感しております。今期も政治・経済の大変動が予測されており、会の運営も難しさを増していくと思われませんが、皆様と力を合わせ、知恵を出し合い最良の選択をして参りたいと思います。

例年の事業と致しまして学生への奨学金の給付、会員の皆様との初夏の親睦会・秋の研修会・忘年会・等はこれまでと変わらず進めて参りますが、今期は特に以下の2点を重点に推進を考えております。

- ① 平成23年10月に創立40周年を迎えますので、節目としての事業を行う。
- ② 当会の活動を大学・教育後援会・会員、他の皆様へ積極的に情報発信することにより、会員の増加と安定的な原資の確保を図る。

微力ではありますが、駒澤会発展のため尽力して参りたいと思います。今後とも皆様の一層のご理解・ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

会長退任にあたって

相談役 磯田 昭

本年5月の委員総会をもちまして任期満了に伴い会長を退任いたしました。6年間にわたり、皆様にはたいへんお世話になりました。この場をお借りし改めて御礼申し上げます。

昭和46年に駒澤会が設立され、まもなく40周年を迎えますが、我々の設立趣旨である在校生への奨学金提供という支援がまもなく1000人になろうとしています。設立当時の奨学金受給生はすでに60代を迎えることとなります。千人の優秀な学生が駒澤大学で学び、巣立ち、社会で活躍してくれている事は最も喜ばしい事であり、また、駒澤会の諸先輩たちの意志を今日まで守り続けて来られたことに、安堵の思いであります。

研修会では毎年貴重なお話を拝聴でき、秋の箱根路・伊豆の海の清清しさに触れ、元名誉会長奈良先生の受賞を皆様と共に祝い、また、箱根駅伝総合優勝の慶びに沸き、そして教育後援会・同窓会役員の方々との語らいなど、思い出は尽きません。

小さな団体が活動をするということは、そこにはさまざまな考えが存在し、多くの課題がありますが、我々の心の眼はいつも駒澤大学に向けられていなければなりません。子息の入学から縁あって集い、支えあってきた仲間として、これからも大学を側面から支えていただきたくお願い申し上げます。

折々にまた皆様とお会いし、語る機会を楽しみに退任の挨拶とさせていただきます。



駒澤会新役員紹介

任期：平成22年5月
～ 平成24年5月



会長 井上俊夫



副会長 赤堀菊絵



副会長 田中隆一



副会長 森屋正治



監査 三宅哲也



監査 吉田洋一



監査 一戸隆男



総務部部長
三崎章子



総務部副部長
久野文代



総務部副部長
吉備宣子



厚生部部長
田邊隆子



厚生部副部長
木村朋子



厚生部副部長
三浦ひろ子



広報部部長
鈴木康元



広報部副部長
荒井喜久子



広報部副部長
菊地英昭



参与 飯白源二
(教育後援会会長)



参与 峯尾 章
(教育後援会副会長)

4月是新緑の季節とも言われますが、組織内においては人事異動の季節でもあります。駒澤会におかれましても、磯田会長が駒澤大学及び駒澤会のため、長期にわたりご尽力されてこられたことに感謝申し上げます。

私も4月に教育振興部に着任し、同窓会、駒澤会、募金事務局をみることになりましたので、皆様のご協力を仰ぎたいと思います。

近年は少子化で進学率が増加しており、様々な資質・能力・知識あるいは適性を持って入学してくる学生が増えている一方で、氾濫する情報の中で自分の目的を明確にすることのできないまま入学してくる学生も増えてきました。当然のことながら大学の抱える問題も多様化してきているように見受けられます。特に、学生は景気低迷の社会環境の中で学生生活を送るために、「日常生活で気になることは」授業・学業もしかりですが、生活のためのお金のことではないでしょうか。このような中で未来を託す若者が、よりよい充実した実りある学生生活を送るために、効果的に奨学制度の充実性を高めていただきたいと思います。

今後とも在校生支援のため、大学の重要な一躍を担う駒澤会のますますのご活躍とますますの発展を望み、本会の有意義な活動を祈念して挨拶いたします。

教育振興部 部長 岩根 嶺 雄



平成 22 年度 委員総会報告

平成 22 年 5 月 22 日（土）14：00 から駒澤大学深沢校舎洋館にて、田中総長先生、岩根教育振興部長出席のもと、平成 22 年度駒澤会委員総会、懇親会が開催されました。（総会 38 名、懇親会 36 名出席）

<委員総会 14：00～>

- 議題
1. 平成 21 年度各部活動報告
 2. 平成 21 年度決算及び基金管理委員会報告
 3. 会計監査報告
 4. 会長・副会長・監査選任
 5. 平成 22 年度各部活動計画
 6. 平成 22 年度予算案
 7. その他



深沢校舎洋館

今回は各部からの活動報告、21 年度決算報告の後、会長、副会長、監査の各位が選任される重要な総会でありました。

3 期 6 年間その職を務められた磯田昭会長が退任され、井上俊夫氏が副会長から昇任されました。副会長には学校とのパイプ役が期待される田中隆一氏、前厚生部長としてご活躍の森屋正治氏が留任される赤堀菊絵氏と共に選任されました。監査は留任の三宅哲也氏、吉田洋一両氏に、新たに戸隆男氏が選任されています。



田中良昭名誉会長

各部の活動計画はほぼ従来通り、予算では最大の奨学金も 25 名@20 万円、計 500 万円と決定しました。

懇親会の中でも駒澤会の今後につき真摯な意見が活発に行われ、じり貧の財務状況の下今後の会の運営・活動はどうあるべきか、駒澤会創立 40 周年の記念事業をどの様な内容とするか、大学側との連携をどう計っていくか等々…。

新しい執行部に対する課題の大きさを各人も共有しながらのお開きとなりました。

懇親会で磯田相談役からは、次のような挨拶がありました。

『皆様のご協力により 6 年間にわたり会長を務めることができました。振り返りますと、私の息子が入学してからちょうど 40 年になります。子供にはまだ駒澤会をやっているのかと言われますが、子供も自分の母校に関心をもっております。次は孫が駒澤に入ってほしいと話しています。40 年はあっという間に過ぎていったように思います。今、一番心配なのは、先ほど三宅監査からもありましたように、リーマンショック、ギリシャショックとあり、その後はポルトガル、スペインと、世界中が経済危機に直面しています。駒澤会の基金にも影響が出てくるのではないかと心配しています。

今後は、私自身身体の続く限り駒澤会に協力し、意見等も言わせていただくつもりです。また皆様と足並みを揃えて楽しい駒澤会、笑って協力できる駒澤会が実現できるよう、考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。』

<磯田会長、6 年間お疲れ様でした。今後ともよろしくご指導ください>

新たに各部に入会された方々の紹介、教育後援会：文化部よりご出席いただきました山本様、各部そろっての写真撮影など、和やかなひと時が過ぎました。来年の委員総会にも多くの方々の出席をお願いいたします。



駒澤会へのご寄付に関する報告

村田 保 廣

本年3月に退官された山口邦夫先生（元法学部教授）から、この度30万円という多額の寄付をお寄せ頂きました。

「牧 祐弘」特別顧問から、ご退職にあたり駒澤会へ多額の寄贈をお寄せ頂いて以来のことです。

新年賀詞交歓会において、先生から村田（元副会長）に「この春で定年退職の時期を迎える。退職にあたって学校のために活動している皆様にお礼の意味で寄付をしたいが」とのお申し出があったのです。

駒澤会の設立主旨と活動内容を簡単に説明させて頂いたところ、「是非に」と言って頂きました。

役員会では、先生のご厚志にどのようにお応えすれば良いのか目下検討中です。駒澤会の歴史に先生のお名前が未永く残るようにしたいと思います。

併せて、大学教職員の方々に、駒澤会のことを更に知っていただく活動も考えて行きたいと思っています。

先生への感謝の気持ちをこめて、御報告いたします。

基金管理委員会報告

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

また、役員会メンバー全員が参加する事により効率的でスピーディな運用管理が出来るよう規定の一部を、総会の承認を得て改正致しました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～6月までの利金	備 考
日興コーディアル証券	76,000円	105回放送債
三菱UFJモルガンスタンレー証券	253,239円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	3,630円	定期預金利息
合 計	332,869円	

基金管理委員長 赤堀菊絵

駒澤会奨学金について

平成22年度も一人20万円を25人に、総額500万円の奨学金が支給されます。奨学金授与式は7月22日（木）に東條学生部長・駒澤会会長・副会長出席のもと執り行われます。詳細は次号（15号）でお知らせいたします。平成22年3月卒業生のご父母から多くの入会金（奨学金基金）をいただきました。改めて御礼申し上げます。

平成22年 駒澤会初夏の親睦会「屋形船」にて

厚生部委員 千田谷京子

6月12日(土)、梅雨入り間近でしたが幸運にも天候に恵まれて、初夏の親睦会が行われました。今回は遠くは福島県、静岡県からの参加もあり、浅草橋駅近くの屋形船「野田屋」に、総勢24名が乗船して、親睦を深めることになりました。

浅草橋駅近くの交差点で道案内のため駒澤大学の紫色の旗を持って立っていると、「あっ！駒澤大学！・・・今日は何かあるのですか？私も駒澤大学出身なのですよ！」と、道行く地元の方々が明るく気さくにお声を掛けて下さいました。

屋形船の歴史は大変古く、平安時代からと言われているそうですが、江戸時代になり大名や武家の間で広まり、御座船と呼ばれ庶民の間にも舟遊びが広がったそうです。江戸末頃より明治にかけて全盛をきわめ、特に隅田川の屋形船は、金、銀、漆、絵画の装飾が豪華であったそうです。

船内の江戸風数奇屋造りの和風座敷に全員が着席して、井上会長の挨拶、赤堀副会長の乾杯、ミニインタビュー、カラオケと盛り上がり、親睦会が進んでいきます。船内のお料理は、特に築地から仕入れの生穴子一本揚げなどのアツアツの天麩羅が大変美味しく、海老、いか、キスと次から次へとテーブルに運ばれて来ます。

屋形船の周遊コースは、神田川の乗船場を出船して柳橋をくぐり、隅田川に架かる数々の橋をくぐり、お台場まで行き、レインボーブリッジとお台場海岸の夜景を楽しむ2時間半の夢空間のひと時でした。出船してすぐに、今話題のスカイツリーもよく見えました。

デッキに立ち、夜風に吹かれて、お台場の夜景、レインボーブリッジを眺めながら、「駒澤大学の駒澤会は、日頃体験できないような楽しい企画がたくさんあり、卒業生の親同志の親睦も深められて、他の大学の卒業生の父兄の方々から羨ましがられるのですよ。」と、会員の方々と話をしました。

これからも駒澤会の意義をたくさんの方々に理解して頂いて、駒澤会に入会して頂くように会員一同で力を合わせて行きたいと思います。



大相撲松谷裕也さん十両昇進祝賀会報告 平成22年4月25日(日)

駒大相撲部出身の松谷裕也君(四股名:松谷)が大相撲の十両に昇進、祝賀会が4月25日(日)に八重洲ホテルで開催され、駒澤会からも10名ほどが出席しました。

駒大から十両以上に出世したのは彼で二人目(33年ぶり)、入門した松ヶ根部屋からは10年ぶりの関取だそうです。

大相撲で十両に昇進するのは実に大変なことらしく、祝賀会場は300人近い出席者で賑わい、司会者は元NHK相撲アナウンサーの杉山氏という豪華さ。親方(元大関・若島津)、女将さん(元アイドル歌手・高田みづえさん)の顔にはこぼれる様な喜びが溢れておりました。

2週間後に始まった名古屋場所は「駒澤大学」の文字を縫い取った化粧回しで土俵入り。もし負け越して幕下に陥落する様なことのないよう、祈るような気持で毎日のニュースに目をこらしましたが、初日は巨漢「山本山」と真っ向勝負での押し出し、13日目まで優勝争いに絡む活躍で9勝6敗の好成績でした。

新十両インタビューで「大学名の入った化粧回しを締めて、どうですか」と聞かれた彼は「頑張らなければという気持ちが出ます」と応えています。

当面の目標は、「高校の先輩、垣添関と当たりたい」と。ご当地九州場所で先輩後輩の対決が実現するよう幕内を目指して、松谷君! 頑張れ!



松谷関の経歴を織り込んだ
相撲甚句(すもうじんく)



第53回全日本大学空手道選手権大会 女子団体組手 優勝祝賀会 平成22年2月26日(金) 京王プラザホテル

大石部長(総合教育研究部教授)、杉山監督(大学職員)の指導のもと、日ごろの厳しい練習の成果が立派に表れ、女子団体組手優勝という素晴らしい結果を残してくれました。(試合は平成21年11月23日、大阪市中央体育館で開催)

祝賀会当日、会場には多くの空手関係者の姿があり、駒澤会会員として祝福に駆け付けた方々もいました。

普段の稽古は新たに建てられた玉川校舎地下の専用練習場で励んでいるそうです。今後の空手部の活動にも注目していきたいと思いました。

大谷前名誉会長を送る会

平成 22 年 4 月 3 日（土）ホテルニューオータニ

大谷先生は、駒澤大学学長、総長として、また駒澤会では名誉会長としてご尽力いただきました。秋の研修会では、毎回先生から出題される問題に、参加者一同悩まされましたが、大変貴重なお話を伺うことができました。先生の長きに渡る駒澤会へのご理解とご協力に対し、駒澤会有志が集まり、先生の送別会を開催致しました。

井上副会長の司会で、赤堀副会長の開会の言葉、磯田会長の挨拶、そして乾杯は高見顧問にお願いしました。高見顧問からは、「大谷先生の講義は毎回学生でいっぱいです！その理由は、先生の講義は愛情がたくさん感じられる講義であることが一番の理由です。駒大の学生としてこういうことを知っていると社会に出たときにいいぞ、と指導されています。こういう講義をしてくださる先生がいなくなるということは、学生たちもさびしいだろうな、と思います。先生の言葉に集約された学生への思いは、すばらしいものだと感じています。」

大谷先生からは、「人生 100 歳生きるということは、たいしたことではない。若くして仏教にめぐり合うことができたなら、一日でもいい、それは 100 歳生きたことに匹敵するのです。年をとってもあきらめというものなどあってはならない。皆様の人生もこれからということです。」

先生の話は教え子の話、著書、映画の話やエピソードと尽きることはありませんでした。

これからも研究活動に、ご専念ください。ありがとうございました。

広報部部长 鈴木 康 元



教育後援会 卒業委員を送る会出席報告

3月25日、大学卒業式後に教育後援会の卒業委員（29名）を送る懇親会が、大学本部棟6階で開催されました。教育後援会で4年間ご活躍された委員の皆様の卒業をお祝いし、併せて駒澤会の活動について直接お話しするため毎年参加させて頂いています。

教育後援会の千葉会長の挨拶に続き、来賓として挨拶をさせて頂く機会を得て、お祝いを述べさせて頂きました。その中で、「駒澤会行事紹介パンフレット」（駒澤会総務部作成）を用い、駒澤会の活発な活動にも触れさせて頂きました。その後、教育後援会から4年間の活動に感謝の意を表して千葉会長より、記念品が手渡され、駒澤会からは、「祝・卒業記念」としてクオカードを贈らせて頂きました。終始明るく和やかで、お祝いムードに溢れた会でした。

会長 井上 俊 夫



新年賀詞交歓会報告

平成22年1月9日（土）ホテルニューオータニ

去る1月9日（土）、ホテルニューオータニで恒例の教育後援会新年賀詞交歓会が開催されました。地下鉄の赤坂見附駅下車、ホテルに向かうと和服姿のご婦人が前後に目立ちます。天気も良く、新年会日和と入場する前から華やかな雰囲気を感じられました。

会場の設えは落ち着いたムード、知った顔を見つけるとやはり箱根駅伝のこと、1区ではどうなるかと気をもませたもの、最終的には2区から9区で16名を抜き、復路優勝となった訳で、常勝の時代とは違った若い力の出現と喜び合いました。

開会后直ちにマーチングバンド、吹奏楽の演奏となりました。3年連続で金賞を獲得という恐ろしいほどのレベルの高さに感心しました。日常の練習も体育会もかくやのハードなものと感じました。正面の舞台の上から会場に展開し、行進しながら、或いは楽器を回すパフォーマンスをまじえながら、生の迫力ある音楽を楽しませてくれました。空手道部（女子）の優勝も耳にし、ここでもまた学生の若い力をまざまざと実感することができました。

教育後援会会長、来賓の挨拶の後、駒澤会磯田会長より、「小さな組織だがお任せください」と力強いご発言がありました。

鏡割り・乾杯と進み、歓談。今年は教育後援会の現役の方が少ないようでした。今後の駒澤会への加入にも影響がでなければと、少々心配になりました。

大学教職員、駒澤会役員、同窓会役員、教育後援会役員の紹介に続き、お待ちかねの福引抽選会。早々に当たり残念がる人、なかなか当たらずやきもきする人がいました。

この日は終始若い学生の力の発揮が実感できたよい一日となりました。

総務部 酒井圭一



平成 21 年駒澤会一泊忘年会にて

平成 21 年 12 月 13 日（日）～14 日（月）熱海の癒「新かどや」

平成 21 年 12 月 13・14 日、駒澤会の忘年会が熱海「新かどや」で開催されました。今回、初の試みの一泊忘年会でしたが、今年は新型インフルエンザが猛威を振るう中、キャンセルが相次ぎ、更に当局の宴席自粛（昨年の損失以来）というダブルパンチで、いつもより少な目の 21 名の会員が集いました。

村田副会長のご挨拶に続き、赤堀副会長の乾杯のご発声で、賑やかな宴の幕開けです。クイズあり、ビンゴあり、フラダンスありと盛り沢山の内容に 2 時間があっという間に過ぎました。井上副会長のクイズでは、熱海市の概要と金色夜叉について、それから駒澤会に関する問題でした。どの部屋もかなりの高得点で、駒澤会の人が如何に博学揃いか改めて驚かされました。後刻、そのからくりをこっそり教えてくださった方がいらっしゃいました。「宿のパンフレットをフロントから頂いて参考にした」「宿の方にお聞きした」等々、なるほど中には要領の良い方がおられるものだと、感心してしまいました。

宴会終盤の厚生部委員の美女軍団???によるフラダンスは、赤堀副会長を中心に曲に合わせて踊った?ののですが・・・、私などはどう鼻真目に見ても盆踊りにしか見えないと言われてしまい、恥ずかしいやらで、頭の中では早く曲が終わらないかと、そればかり考えていました。しかし、このフラダンスが思わぬ会場の爆笑を誘い、森屋部長と新人の渡邊委員が歌う「麦畑」に合わせ、舞台上で更に体を動かす（本人は踊っているつもり???）頃に至っては、会場が一気に盛り上がり、これぞ忘年会!という気がしました。駒澤会に入って今回ほど楽しく、皆さんが笑った忘年会は初めてでした。

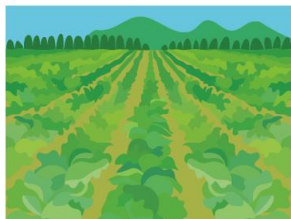
宴会が終わり、気分が高揚したまま、部屋に戻ると、「ヒュードン!ヒュードン!」の音に引き寄せられました。真っ暗な夜空を彩る美しい花火に魅せられ、部屋のそこかしこから、歓声とため息が漏れ、胸が震えるような感動を味わいました。皆さん、花火は夏と思いませんか?花火の本当の美しさを見たいなら、絶対冬です!そう実感しました。

息子には「この不景気に熱海で泊りがけの忘年会ですか?」などと笑われながら、遠慮がちに家を出発しましたが、今回参加して本当に良かったと思っています。この感動を少しでも皆さんにお伝えしたくて、ご報告させていただきました。来年は更に皆様に喜んでいただけるように、厚生部一同頑張って参ります。乞うご期待!!

厚生部部长 田 邊 隆 子



会員紹介



総務部
及川雅之さん

何日か前、三崎総務部長より自己紹介なるものを書けと言われ大変戸惑ってしまいました。駒澤会入会以来、何もしてこなかった私だけに。

さて、その自己紹介となるとまた、これもご披露できる何ものもないのも事実です。

ところで私、生まれ育ちは横浜だった為、貿易に憧れ商社に入りました。そこで、機械、雑貨などの輸入取引や輸出もしてまいりました。その間、通信の道具一つを取っても、手動タイプ、電動タイプ、テレックス（テレタイプ=かつて、電電公社のオペレーション講習に参加したのが懐かしい）から、FAX、メールにと変わり、昔、封書で往復していたやり取りが、今や瞬時になって返信され、便利な反面速すぎてその対処に困ることも。

科学の目覚ましい進展は日進月歩で留まることを知りません。

ところで、貿易ごぼれ話には沢山のユーモアなどがありますが、其のうちの一つ、ニュースなどを国内に入れる場合、先ず税関で検査し後に入手、放映となっていたものが人工衛星や放送技術の進歩がその頭上を越え、直接入手出来る時代になって来ています。いつの時代にも規制や法律は事が起きてから出来ます。このスピード時代の変革を目の当たりにしている今日この頃です。

私は、定年後嘱託に移行するも、思い切って地元（横浜から浦和、10年を経て、在巢鴨）で働くことを決意しました。社会福祉法人で障害者の子供たちの就労支援をして参りました。

現在諸団体や市民農園（NPO）世話役あるいは、地域管理組合の理事長として大変忙しく、駒澤会には何も出来ず、ただただ申し訳なく常日頃思っております。

駒澤会のこれからの更なる発展を祈るのは勿論、今後何か一つでもお役に立っていきたくとも思っています。



広報部
吉川文子さん

息子の大学卒業とともに、教育後援会の委員を4年前に卒業しました。教育後援会では文化部に配属され、会報発行のために編集会議・校正・サークル取材など貴重な経験をさせていただきました。今でも活動場所であった会議室での様子が目に浮かびます。楽しくて個性豊かな皆さんとの出会いに深く感謝しております。

先日、初めて駒澤会の委員総会と懇親会に出席して、懐かしい方々と再会し、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。現在私は地域で青少年の育成に関するボランティアをさせていただいております。今年は少し行動半径を拡大して、電車に乗って駒澤大学まで行こう！と気持ちを入れ替え、広報部の一員として活動させていただきたいと思っております。

駒澤会は奨学金給付により在校生の支援を行っています。家にも他大学ですが2人の現役大学生がいますので、この支援はとても大切な事業だと感じています。維持会員になり少しでもお役に立てればと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。



会員紹介



厚生部
滝沢憲示さん

横浜市泉区在住の滝沢憲示と申します。

私は2005年2月1日に電機製造会社を定年退職し、現在は趣味のジョギングや山歩き等しています。私の娘は、2006年3月に社会学科を卒業して、高校生用の教材を販売する会社に就職し、現在名古屋本社に勤務しています。

駒澤会では昨年10月に秋の研修会「千賀ノ浦部屋～江戸東京博物館見学」に参加しました。11月に毛利衛氏の講演会「宇宙に挑戦するエネルギー」を聴講させて頂きました。今年1月に厚生部の田邊部長（当時副部長）から「厚生部に入りませんか」との電話を頂き、厚生部に入りました。厚生部に入ってからには厚生部会及び総会に出席すると共に大谷哲夫元総長先生の最終講義を聴講させて頂いたり、全日本空手道選手権大会女子団体組手優勝祝賀会に参加させて頂く等普段できない経験をさせて頂いています。

趣味のジョギングは、日曜日の朝に近所の人達と公園に集まって体操した後約10Km走っています。ジョギング仲間とマラソン大会や駅伝大会にも出場しています。5月3日にはジョギング仲間7人で丹沢山に登ってきました。

ボランティアは、昨年赤十字救急法講習会を受講して、日本赤十字社の防災ボランティアに登録しました。赤十字救急法講習会を受講して特に印象に残ったことは、心臓又は呼吸が停止した人は何もしなければ、そのまま死んでしまいますが、胸骨圧迫を行えば心肺蘇生して生きる確率が高くなるということです。もし皆さんの周りで倒れて意識不明に陥った人がいたら、是非以下の心肺蘇生法を試みて下さい。よろしくお願い致します。

「心肺蘇生法の手順」

1. 意識の確認
声をかけ、意識がなければ、近くにいる人に、119番通報とAED手配をお願いする。近くに人がいなければ自分で行う。
2. 気道を確保し、呼吸の確認
顎を少し上げ、救助者の耳を鼻口に近づけて呼吸を確認し、呼吸が停止していたら心肺蘇生措置を行う。
3. 人工呼吸を2回
口から口へ息を2回送り込む（1回約1秒）。不可能な場合は、人工呼吸を省略してすぐに胸骨圧迫を行う。
4. 胸骨圧迫30回
胸骨の中央下部を毎分約100回のテンポで30回両手で押す。
5. 救急車が到着する迄3と4を繰り返す。
6. 3と4を繰り返しても心肺蘇生成らず、AEDが届いたら説明に従い即座に施行する。



第63回関東大学ボクシングリーグ戦を応援して

今年度は広報部委員である村野常夫氏の息子さんが出身のボクシング部のリーグ戦にスポットを当ててみたいと思います。

本学ボクシング部は関東大学ボクシングリーグ戦1部リーグに所属しています。

関東大学ボクシングリーグ戦はLF（ライトフライ）・F（フライ）・B（バンタム）2名・L（ライト）2名・LW（ライトウェルター）・W（ウェルター）・M（ミドル）の7階級9名により行う団体戦で、先に5勝した大学に勝ち点が与えられます。

最下位になった大学は2部優勝校と入れ替え戦を行い、勝利することで残留できます。

駒大は昨年度、強豪の農大・日大を破り2位になる躍進を見せました。今年は第3戦までが終わり、昨年度破った強豪校に連敗し、1勝2敗と苦戦しています。

第4戦は今年度2部リーグから昇格した日体大戦のため、1部常連校になるためにも負けられない戦いが続きますが、駒澤魂を見せて、残り2戦勝利を目指してほしいと思います。

第1戦 5月8日（土） ○が勝ち

☆駒大5—4法大

【LF】林田太郎（経3）○RSC●生田目暁大

【F】楠 朱貴（歴3）○ポイント●五十嵐航

【B】薦田賢治（法3）●ポイント○丸亀光

【B】飯村一磨（法3）●ポイント○伊藤悠樹

【L】中村晋也（経4）●ポイント○飯田大幸

【L】小山大貴（仏4）○RSC●中田誠人

【LW】越川孝紀（経2）○RSC●重森厚志

【W】漆原 祥（法1）●RSC○井上岳志

【M】濱崎良太（禅2）○ポイント●高田大将



広報部 村野常夫さん

第2戦 5月29日（土） ○が勝ち

駒大3—6日大☆

【LF】林田太郎（経3）●ポイント○柏崎刀翔

【F】楠 朱貴（歴3）●ポイント○重楽昭平

【B】西嶋伸悟（法2）●棄権○鈴木 康

【B】志渡澤和宏（仏1）●ポイント○佐藤貴則

【L】関口和宏（社4）●RSC○中野慎也

【L】小山大貴（仏4）●RSC○戸田健樹

【LW】越川孝紀（経2）○ポイント●高橋雄大

【W】谷崎和人（営4）○ポイント●八鍬圭祐

【M】濱崎良太（禅2）○ポイント●岡田良綱



赤い
ヘッド
ギアが
駒大



第3戦 6月12日（土） ○が勝ち

駒大1—8東農大☆

【LF】林田太郎（経3）○ポイント●華井玄樹

【F】野原敬太（営3）●ポイント○豊田 大

【B】小倉賢士（経4）●ポイント○重田 誠

【B】薦田賢治（法3）●RSC○青木貞頼

【L】小山大貴（仏4）●ポイント○杉田大祐

【L】中村晋也（経4）●KO○成松大介

【LW】越川孝紀（経2）●ポイント○吉野修一郎

【W】谷崎和人（営4）●失格○山田崇人

【M】濱崎良太（禅2）●ポイント○藤田孝洋



写真提供：教務部 小板橋良太

駒澤会にシンボルマークが出来ました！

駒澤会の活動を学内外の皆様を紹介するため、また、いろいろな所にこのマークを使用することで、駒澤会を身近なところで知っていただきたく、マークをつくりました。作成はアイデア・ノード株式会社、代表取締役社長の原田篤さんです。

原田さんの会社は、WEB事業・AD事業などを手掛け、駒澤大学で教職員にパソコン（おもにホームページなど）の講習を担当されています。

これから、このシンボルマークを効果的に使い、駒澤会のPRに役立てていきたいと思いを。 広報部



<シンボルマークの意味>

『駒澤会シンボルマーク』は、駒澤大学の発展、在校生への支援を目的とし、前進を続ける「駒澤会」ご父母の意志をイメージしてデザインされました。

同じ方向を見つめる横顔は大学支援と駒澤会の設立主旨を後世に伝える為の気持ちの結束を表しております。

また色使いでは、駒澤大学カラーの紫を基調色とし、四つの横顔それぞれに、最も色の濃い右端から順に、

1. 駒澤会がこれまでに培ってきた伝統と、携わってきた方々の重み
2. 現在の活動と成果
3. 近い将来に向けてのビジョン
4. まだ見ぬ先の真っ白なパレット

このように、過去から未来に向けての襷りレーの意味を表しております。

各部入部のお誘い

維持会員の皆様へ

駒澤会では、維持会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、**近郊の方又は遠方でも2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。**皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：田村までご一報ください。

TEL : 03-3418-9189 FAX : 03-3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事や企画の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所など考え活動しています。

お知らせ

大学行事予定

7月22日(木) 前期授業最終日
23日(金)・24日・26日～29日(木)

前期定期試験

9月16日(木) 後期授業開始日
10月15日(金) 第128回開校記念日
11月6日(土)・7日(日)

オータムフェスティバル

駒澤会行事予定

7月10日(土) 役員会
上旬 駒澤会だより14号発行
22日(木) 駒澤会奨学金授与式
10月16日(土)～18日(月)
秋の研修会(永平寺・三国温泉)
30日(土) 役員会
11月27日(土) 駒澤会忘年会
12月 中旬 駒澤会だより15号発行



駒澤会事務局 (教育振興部)

第10回駒沢落語会「ふれあい寄席」のご案内

日時 平成22年12月11日（土）午後1時開場 午後1時半開演
午後4時半終演（予定）

場所 駒澤大学記念講堂

テーマ 第10回駒沢落語会「ふれあい寄席」 さよなら公演—感謝を込めて

出演 新真打・桂文雀（桂笑生改め）、名誉真打・またも家楽大（法学部西 修教授）
桂竹丸、桂右團治、三遊亭遊馬 ほか

* 「世田谷名物」として好評を博してきた駒沢落語会「ふれあい寄席」は
今回をもって幕を閉じます。ぜひお見逃しなきようぜひお越しください。

編集後記

自宅が駒大の近くと言うだけで、教育後援会から駒澤会へと何年関わりを持ってきたのだろうか？ 息子からは”おふくろの駒大”とからかわれながらも今日迄通い続けてきました。近頃は体力の限界を身にしめそろそろ卒業の時期が来たのではと思いながらも、楽しい広報部の皆様の笑顔に引き寄せられてしまっています。そして”少しでも”駒澤会だより”の発行を手伝えればと思っています。多くの方が、学生に奨学金を贈ると言う駒澤会の主旨に賛同されて入会されます様願っております。

そして 来たれ！ 楽しき広報部に！



広報部 高橋輝子



大谷前名誉会長 送別会 集合写真

駒澤会だより 第14号

発行日：平成22年7月5日
発行者：駒澤大学駒澤会 広報部
154-8525
世田谷区駒沢 1-23-1
TEL：03-3418-9189
FAX：03-3418-9190
駒澤会ホームページ
<駒澤大学HPより>
<http://www.komazawa-u.ac.jp>
在校生父母の方
～ 駒澤会クリック